Management Club Report

Mar.2014/Vol.135

Monthly Opinion　≪辞め方のルールと作法≫

3 月 4 月は人事異動の季節です。歯科医院の場合、異動というと退職・就職という、「辞めるか、勤めるか」という両極端を表すことが多いと思いますが、この 3 月いっぱいで退職をしていく勤務医やスタッフの方も大勢いることでしょう。

退職も就職も本来は新しい夢に向かって飛翔する踏み切り板としての意味を持つ出発点であるはずです。ところが、就職はほぼ 100%そうであっても、退職の場合には必ずしも希望に向かうという明るさが伴わないことが多く見受けられます。

夢や希望に向かうことを肯定したとしても、あるいは肯定しようとすればするほど、現状に対する不満や不服、上昇への限界感が内包されての決意であったのだろうと、退職者の気持ちを慮ることになり、今までの絆に幾ばくかの亀裂を感じてしまうからかもしれません。

この 3 月は、定期的に院内研修にお伺いしている歯科医院の何軒かで後味の悪い退職が散見されました。彼女たちの成長に楽しみを感じ、医院の発展を夢に描いていた院長先生たちは愕然とした思いに駆られたことと思います。いずれもが唐突な申し出で、しかも「近々辞めるかもしれない」など露とも考えていなかったスタッフでしたので、その心中や察して余りあるものでした。

幸か不幸か、私はこれまで 2 度会社を辞めた経験を持っています。一つは上場企業で大きな組織でしたが、無役の下っ端の頃、もう一つは組織としては小さいものでしたが、経営職階に近い幹部社員でした。そのような経験が役に立てばよいかなと思い、些か奇妙なテーマですが、まとめてみようと思います。

1　現代企業に残った『人間としての基礎教育』

印象に残った『忠臣蔵』のワンシーン

もうずいぶん昔のテレビ映画ですが、毎年のように製作される『忠臣蔵』の中で、主人公の大石内蔵助が長男の松之丞を元服させるにあたって切腹の作法を手ほどきするシーンを何故かよく覚えています。

切腹という武家の作法を教えることは侍としての義務であり、元服の時にそうするのが一般的であったのかどうかは知りません。この映画では、吉良邸討ち入りを密かに決め、当時まだ 14 歳であった長男を一党に加える決断をした内